

粟の段

爰こゝにあわれをとめしハ佐渡さどが
島しまにおわします法ほ臺たい所どころの
御身みみのうへ扇あしの橋はしの別わかれれより
いとしまい子まにもはなれ島しま

實げにやむかしの世よにあらば
粟あちともひともしるよよしままに
今いまはうはき目めに粟あち畑はたけ鳥とりをひ
小屋こやに只ただ獨ひとり賤しづが手て業わざを苦くるしこの
目めさへ泪なみだに肉にく落おちて泣なむみががりし

目なし鳥トリ登ひらともわかぬやぐら

よに安寿恋あしやこひしやほらよしほ

対子つし王恋おうこひしやほらよしほらよし

ほよこ以粟いぬちをついばむ鳥トリの

恨うらみしや我身わがみハ何なにとなら子の

綱つな手て引ひわづらうておわしける

鳴なま育そだちの山やま賤がづ共とも草くさ籠かごせ負おひ通とほつれ

ヤアセウくせくつとのトリ盲目をいが鳥トリ追をいているハ

なぶつて行んと立たち留とまりいぬく

女おとめ面しら白しろう鳥トリを追をへ恋こひしおと人ひとに

あちせをまらう早うせりかして
「ア」の女を我におもひの
あるゆへに恋しと斗うなげくぞや
面白う鳥を追へとハ子を尋るが
面白か恋しまんに逢せんとい

空言ながらなつかしや何国の浦
いづくの鳴目の奉の地ハよも
さるまじ限りも浪の六十六国
三千世界にくらぶれが粟を教せし
ごとくとして以日の奉を粟教辺土と

いぶぞかし以粟いぶの中なかにこそ
我子わがこハあるらめ尋たづねてたよ
人ひとくなく婦あねハ見みぬのほうやれほ
弟おとこハなまかほうやれほ穂ほには
乱みだるゝ上風うかぜにさむぐつばさの

むらゝはつと羽はかせうら風かぜ
さら〜鳴子なるこの音をがからころり
よしなや我子わがこハありもせめ
あらぬ小鳥とりののさへがしや
三下リ
阿ア小雀すいめがチヤ〜クチヤト我われと女おんなと

笑ふよわら増にくやにくくや目白しろの朝あさから
子こかららひがららむれしつもつれつ
己たがやまま〜色いろ〜鳥とりの杖つゝに
はらららつつ鳴なりの綱つなもも又また引ひはいて
から〜〜度ちへへゆゆかかじじ秋津洲あきつすの

内外うちとの神かみの恵めぐみももななままがが安寿あんじゆ
恋こひししやや対つ子こ王をう恋こひししははううややれ
〜とと泣なくくるる〜女をの前まへ後ごにに手てをを
たたままそそまま〜くくそそちちららののははううややれれは
是こゝ〜ちちららののははううややれれはは後ごよ

前まへよと立たち迷まよわせほつやめほんに
よ慰なぐさと一度いちどにとつとぞ笑わらふ声こゑ
「女メをなぶつておかしおしいや思おもひ
しらせん里さと人ひと共ともと杖つゝ追をとり
なぐり立たて追を廻ひまわせバ逃にげよ〜と

ちり〜に行ゆくおもしらぬ
盲もう人じんのあしとよほ〜
立たち迷まよわせつまづまろぶ粟あち烟ばたけ
鶉うづらの床とこにふししづ〜泣なみ入いり
なまぐり給たまひけり